

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070600962
法人名	株式会社 エルダサービス
事業所名	グループホーム 高見
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区高見五丁目2番1号 (電話) 093 - 651 - 1275

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年5月5日

【情報提供票より】(平成21年3月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平屋建造り 1階建ての1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,667円		

(4) 利用者の概要(3月9日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック / 藤崎歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北九州市立美術館や総合体育館、到津の森公園などの公共施設に囲まれた、グループホーム高見は、市街地の近郊に立地しながらも、緑豊かな環境を有している。ホームの庭は高見中学校のグラウンドと接しており、放課後のクラブ活動の、活気ある声や音が聞こえてくる。また近隣の北九州盲学校や保育園との交流も盛んに行われ、入居者の楽しみとなっている。ホームにはカフェカウンターが設備され、楽しく、居心地よく過ごせる空間となっている。管理者・職員は、日々入居者の思いや意向に寄りそい、活き活きとケアやサービス提供に努めている。年々、その努力が実を結び、家族にとっては訪れやすく、管理者に相談を持ちかけるなど信頼関係を築いている。法人として介護事業に多角的に取り組んでおり、今後の取り組みが楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果では、ケアマネジメントにおける「思いや意向の把握」「チームでつくる利用者本位の介護計画」や「災害対策」に関して指摘があり、日々の記録の工夫や、運営推進会議と共に消防訓練を行うなど、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員数名で、日々のケアやサービスを振り返り作成している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族の親睦も兼ねて運営推進会議を開催し、ホームの状況報告や活動予定などを報告している。会議では、民生委員より認知症に関する質問を受けるなど、多様な意見交換の場として活かし、日々のケアやサービスに活かしていくように努めている。また、地域包括支援センターより情報提供もあり、会議が有意義なものになるように努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議は家族の親睦も兼ねて開催し、意見や意向を言っていたく機会として活かしている。日頃から管理者は、家族から気軽に相談や意見を言っていたく関係に努め、家族とのコミュニケーションを大切にしている。また、年に1回、家族会を開催し、管理者・職員との親睦を図ると共に、家族同士の交流も図れるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域行事である高見祭りなどに参加し、地域の童謡を歌うボランティアにホームに訪問していただいている。近郊に盲学校があり生徒が訪れ、楽器演奏や歌・ゲームなどを披露し、大変入居者に喜ばれている。また、盲学校の演奏会などの行事にも参加し、高見の森保育所の運動会にも参加している。地域密着型サービスとしては、町内会の依頼により家族介護教室の協力や、近所の方の介護相談など役割を果たしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	グループホーム高見では「人格を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービスを優先し、目くばり・気くばり・思いやりの精神で支援していく」を常に職員間で話し合いケアを実践している。地域密着型サービスの意義を理解しており、住み慣れた地域で安心して暮らしができるように支援していくことが方針となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	日々のケアやサービス提供の中で、理念を振り返ることができるように、毎朝のミーティングや定例会の機会などに理念を確認し共有に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、地域行事である高見祭りなどに参加し、地域の童謡を歌うボランティアの訪問がある。近郊に盲学校があり生徒が訪れ、楽器演奏や歌・ゲームなどを披露し、入居者の楽しみになっている。また、盲学校の演奏会などの行事にも参加し、高見の森保育所の運動会にも参加している。地域密着型サービスとして、町内会の依頼により家族介護教室の協力や、介護相談などの役割を果たしている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回の評価結果の指摘事項を前向きにとらえ、改善に向けて取り組んでいる。自己評価は管理者・職員数名で、日々のケアやサービスを振り返り作成している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	家族の親睦も兼ねて運営推進会議を開催し、ホームの状況報告や活動予定などを報告している。会議では民生委員より認知症に関する質問や、地域包括支援センターより情報提供もあり、意見交換の場として活かし、日々のケアやサービスに活かしていくように努めている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	北九州市が派遣する介護相談員を、月2回受け入れるなど連携を図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、入居者が制度を活用しており、サポートしている。また、制度の理解を高めるためにセミナーに参加するなど、職員の理解を育んでいる。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	入居者の担当職員が利用料の明細と共に、写真を付けて手書きの手紙を送っている。生活状況・健康状態・日常生活の中での言葉・活動状況などを報告している。また、面会の際に家族とのコミュニケーションを図り報告を行っている。状況の変化があった場合は、その都度報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議は家族の親睦も兼ねて開催し、意見や意向を言っていただく機会として活かしている。日頃から管理者は、家族から気軽に相談や意見を言っていただく関係に努め、家族とのコミュニケーションを大切にしている。また、年1回、家族会を開催し、管理者・職員との親睦を図ると共に、家族同士の交流を図れるように努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者のダメージを防ぐために異動や離職の際には、事前に職員の募集を行うなど、引継ぎの期間をとる等の配慮を行っている。また、法人内のマンパワーによりサポート体制を築き、入居者のダメージに配慮した取り組みを行っている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	グループホームとしての採用をおこなっており、偏見を持つことなく、働く意欲の高い方などを採用している。職員はスキルアップを高めるために資格取得のバックアップをはじめ、法人の全体研修や、北九州市社会福祉研修所の研修など、計画的に受講できるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人全体の研修として「身体拘束及び高齢者虐待」や北九州市社会福祉研修所の研修に「権利擁護」「認知症医学講座」「心理学講座」などが計画され、認知症の理解を高めながら、人権に関して学ぶ機会を設けている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	平成21年度のエルダーサービス研修実施計画があり、その中で、法人のグループホーム4事業所が受講すべき研修を明確にしている。また、北九州市社会福祉研修所の年間の研修情報も把握しており、研修内容によって受講している。研修参加の報告書もあり、職員のスキルアップを高めるために計画的な研修受講を支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	研修受講の際には、他のグループホームと情報交換を行い、相互訪問するなど連携を図っている。法人内の4ヶ所のグループホーム同士の充実した連携がある。今後は地域における連携をさらに高めていくことが期待される。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居の際には、家族からの情報により、入居者の住んでいた環境や暮らしぶりなどを把握し、入居者との共通話題を見出し、徐々にホームや職員になじんでいただくよう取り組んでいる。また、自宅に近い環境づくりを支援し、以前から使用していた食器・寝具・家具など持ち込んでいただき、家族の協力のもと安心して入居していただけるよう取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者のその日の希望により、茶碗拭き・拭き掃除・洗濯物たたみなど役割を意識して自主的に行っていたい。入居者・職員共に、楽しく協力しながらお互いのできることを行う関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日誌に入居者の細かな変化や気づきを記録しており、入居者の好きなこと、喜びなどを、日々の暮らしの中で見出していただけるよう取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居時に「生活と安全のカルテ」を作成し、入居者の全体像をとらえる内容となっている。日誌には、入居者の状況が細かく記載され、今後は、どんな場面で入居者の笑顔や表情の変化があったかなど、日々の暮らしの中で入居者の楽しみと喜びを更に深め、介護計画に反映していくことが期待される。		看護計画書を作成する中で、薬の副作用などの確認・注意点を記載し、介護計画との連動により、サービスの向上につながると考えます。。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	期間に応じてモニタリング表で評価を実施し、見直しを行っている。入退院や状態変化があった際には、介護計画の変更を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	法人としてヒヤリハット・事故報告の情報が共有され、状況・原因・対策など、危機管理を徹底している。グループホーム4事業所で生け花教室・リフレクソロジー(英国式マッサージ)に取り組んでいる。また、法人のデイサービスの送迎車を借りてドライブを楽しむなど法人のスケールメリットを活かして取り組んでいる。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	隔週でかかりつけ医の往診があり、また週1回、訪問看護があり健康管理を行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重度化した場合における対応と指針」があり、急性期における医師や医療機関との連携体制を築いている。また、「看取りに関する指針」では、ホームにおける看取りの考え方・看取り介護の具体的支援・具体的方法などが明確に示されている。看取り介護についての同意書も備えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	トイレでの声かけなどの際には、耳もとでささやくなどプライバシーに配慮した対応を行っている。個人の記録などは事務所コーナーの一角に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	管理者・職員は入居者との会話の機会を多く持つように心がけ、入居者の思いや希望を聴き、本人の望むライフスタイルを尊重し、レクレーションへの自由な参加など、自己決定・自己選択が行えるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	専任の調理担当者により食事を提供し、夕飯は麦を混ぜたご飯など食事の工夫がある。職員は弁当を入居者と共に食べながら、さりげなく食事の介助を行い和やかな雰囲気であった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	本人の意向や状態により、入浴したい日や時間に合わせて入浴できるように取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの能力や希望に合わせて、掃除・洗濯物たたみ・食器の後片づけを手伝ってもらい、風船バレー・トランプ・おはじき・オセロ・パズルなど好みに合ったレクレーションを過ごしていただいている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホーム近郊は文化施設をはじめ利便性が高く、日課としての散歩、近郊のショッピングセンターでの外食やウインドーショッピング、花見のドライブなど、気晴らしや季節感を感じていただくために外出を支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	管理者・職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は居室や玄関の鍵はかけていない。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	平成20年度は、年2回、4月と11月に防災訓練を実施している。そのうち、1回は地域の参加・協力により、運営推進会議の開催に合わせて実施している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人の栄養士が献立を作成し、栄養摂取量を記録している。給食日誌があり、入居者の食事の状態・食事量も記録している。水分摂取量も記録し、1日を通じて必要な栄養・水分を摂取できるように取り組んでいる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は明るく清潔で、壁には職員の手づくりの飾りが何気なく掛けられ、家庭的で落ち着いた環境となっている。共用空間から庭のウッドデッキに出られる造りとなっており、日中は、ひなたぼっこなども楽しむことができる。また、窓から散歩コースである桜並木も見ることができ、季節感を感じることができる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の居室は、これまでの住まいの環境と同様に、箆笥や仏壇・テレビが持ち込まれ、思い思いの暮らしができる環境となっている。入居者の好みに応じて、畳の部屋に工夫するなど入居者本位の住まいとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			